

[7] 小林市小体連

I 年間事業

回	期 日	時 間	会 名	内 容	会 場
1	6月17日(金)	15:30~16:30	理事会	本年度役員選出・事業計画 陸上大会計画案検討 研究の方向性について	南小
2	8月26日(金)	14:30~16:30	理事会	陸上大会について 研究について	南小
3	10月20日(木)	13:30~16:30	理事会	陸上大会前日準備	南小 運動公園
4	10月21日(金)	8:30~16:30	大会	小体連陸上大会・片付け	運動公園
5	12月6日(火)	15:00~16:30	理事会	陸上大会記録整理 研究報告	南小
6	2月17日(金)	15:00~16:30	理事会	年間反省・次年度に向けて	南小

※ 第2回において、県小体連研究部長の年永健二教諭に「ネット型ゲーム」の授業づくりについての講話をして頂いた。

※ 第4・5回については、陸上大会の分散開催としたため中止とした。

尚、各学校・各ブロックで小林市運動公園において記録を測定し、市小体連陸上大会の規定（個人種目8位まで、リレー3位まで）に準じて、表彰を行った。

※ 12月6日（火）の理事会では、細野小学校において瀬戸崎教諭による第6学年ソフトバレーボールの研究授業を行った。

II 事業部のあゆみ

1 陸上大会

- (1) 大会名 令和4年度小林市小学校体育連盟第63回陸上大会
- (2) 実施日 令和4年10月20日（木）から11月7日（月）の期間
- (3) 会 場 小林市内の各小学校
- (4) 出 場 者 小林市内小学校（12校） 6年生
- (5) 実施種目 100m走、50mハードル走
長距離走（男子1000m・女子800m）
ソフトボール投げ、走り幅跳び、学校対抗リレー
- (6) 競技方法
 - ・ 競技は全てタイムレースとする。
 - ・ 選抜種目については、一人一種目までとする。ただし、800m、1000m、学校対抗リレーは除く。小規模校については配慮をする。
 - ・ その他細部については、小林市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 表 彰 各個人種目・リレー種目共に8位までを入賞とする。
一般種目1位の児童に記録証を渡す（標準記録突破者については別途）。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 主題設定の理由

小林市小体連では、令和元年度より3年間、体育科授業における「主体的・対話的で深い学びのある授業」はどうあればよいかを、授業の工夫・改善及びデジタル化とも関連させて、研究を進めてきた。昨年度より全児童にタブレット型パソコンが配布され、それに伴い、ICTを活用した授業はどうあればよいか小体連でも実践を積み重ねてきた。体育科におけるICT機器の有用な活用法として、的確な動きをとらえたり、自分の動きを客観的にとらえたりすることができることがあるとわかった。

今年度は、令和6年度の県学校体育研究発表大会での授業発表を踏まえて、ボール運動「ネット型ゲーム」の学習に絞り、ICTを活用しながら、主体的・対話的で深い学びを通して、運動に親しもうとする体育科授業について研究を推進することにした。

3 研究の目標

主体的・対話的で深い学びを通して、運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方を究明する。

4 研究の仮説

体育科学習において、主体的・対話的で深い学びの視点から、運動のポイントを意識したり、自己の課題を解決しようとする意識をもたせたりする工夫を行えば、運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるであろう。

5 研究の内容

体育振興指導教員を講師として招聘し、ネット型ゲームにおける指導の在り方について学んだ後、市内各小学校において、実践を行った。さらに、ネット型ゲームにおける主体的・対話的で深い学びのある体育科学習の指導法について理解を深めるため、授業研究会を行った。

6 研究の実際

【1】 体育振興指導教員の活用

県の体育振興指導教員である年永教諭に、「ネット型ゲーム」の授業づくりについて講義をしていただいた。ここでは、授業づくりの仕方に加え、評価の仕方についても講話をしていただき、体育主任の中で「ネット型ゲーム」について共通理解を図るようにした。

【2】 授業研究会（細野小学校 瀬戸崎教諭）

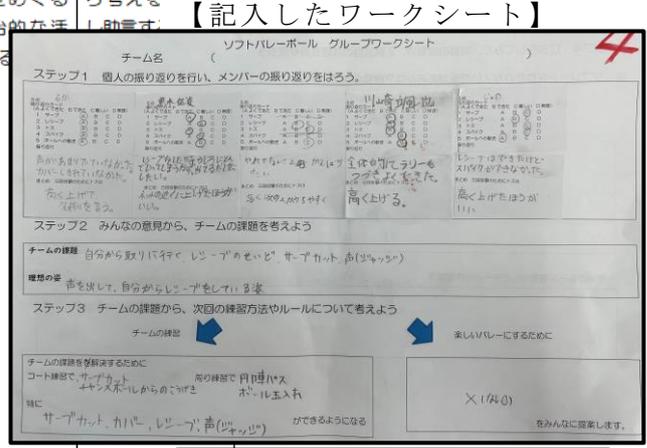
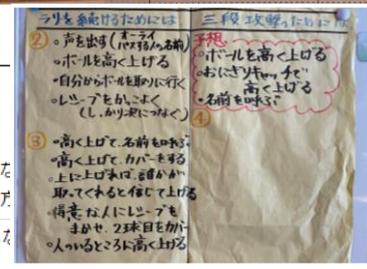
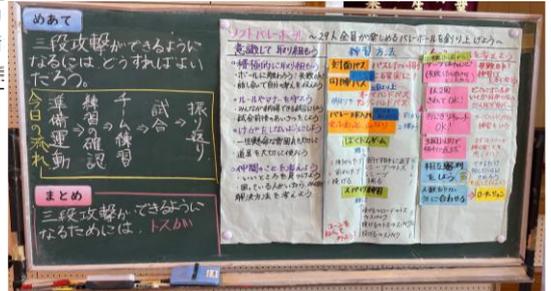
今年度は、次年度以降の研究の方向性を探るために、授業研究会を行った。授業参観の視点は以下の2点である。

- ① チームで話し合う場面において、児童がポイントを絞って動画を見ることができているか。
- ② 児童がワークシートを活用して課題解決をすることができているか。

○ 学習指導過程

【板書写真】

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○ 評価項目 【Aの例】	努力判断への
はじめ	1 準備運動を行い、これまでの学習について振り返る。 2 本時のめあてと学習の流れを確認する。	・ 主運動につながる準備運動の時間を設定する。		
なか	3 チームで前時に立てた練習計画について確認する。 4 各グループで課題解決に向けた練習方法を選択し、練習を行う。 5 メインのゲーム1を行う。 6 試合の振り返りと練習の成果・課題についてチームで話し合う。 7 メインのゲーム2を行う。	 <p>【撮影した試合の動画を視聴しながら話し合う児童の様子】</p>		
おわり	8 チームで本時の振り返りと、次回の練習について考える。	・ チームの振り返りと自分の振り返りを1枚にまとめることで、自分たちの課題が明らかになり、話し合いがスムーズにいくようになる。	みんなの意見から次時のチームの練習を根拠をもって選ぶことができる。	チーム多くの人感に目を寄せ、何が苦考えるよする。
	三段攻撃ができるようになるためには、トスが（ ）する（ ）内には自分の言葉が入るようにする。	・ 今日の学習から、自分の言葉でまとめがかけられるように指導する。		



【ワークシートを活用して、チームで話し合いをしながらの課題解決に取り組む児童の様子】

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- 研究授業の中で、タブレットを活用したり、ワークシートを活用したりすることで、児童が授業のめあてに迫ることができた。
- ワークシートを活用したことで、児童が主体的に課題をもち、解決のために話し合いを行うことができた。
- 本年度の研究を通して、主体的・対話的で深い学びを実現するためのツールとして、タブレットが有効であることが共通認識できた。

(2) 課題

- 授業におけるタブレットの効果的な活用の仕方を今後深めていく必要がある。